

No.	団体名	活動・業績等の概略
1	平塚湘風高等学校PTA	・地域の教育環境に関する活動 ・学校以外の各種関係機関、団体との連携協力に関する活動 ・多くの保護者や教師が参加しやすい環境づくりや運営効率化への工夫等
2	神奈川工業高等学校PTA	・PTAとデザイン科の生徒が協働で商品制作を行い、文化祭や横浜STEAM EXPOで販売することで、PTA活動のPRにつなげた。
3	座間高等学校PTA	本校のPTA組織は「出来る人が、出来る時に、出来る事を」をスローガンとしており、そのためにいくつかの取り組みを行い、全校生徒の1割である約100名の保護者が役員として活動しています。 本校独自の活動である「藍の栽培と一連の活動」また、前年度より座間市のシンボルであるヒマワリを使った「ヒマワリ染め」、今年度より開始した「制服リサイクル」など本校PTA活動の活性化に寄与していることだけでなく、学校・地域との活動に貢献したことや、今後の取り組みについて報告します。
4	秦野高等学校PTA	○学校、保護者、地域との繋がりを大切に、生徒が安心して学び、伸びやかに成長できる環境づくりを協働して進めるとともに、PTAをあげて創立100周年に向けた機運を高めている。 ・年3回、保護者向け進路講演会を対面とオンラインのハイブリッド型で実施。保護者自身が子供の進路選択について学びを深めるきっかけとした。 ・地元業者に依頼して自転車安全点検を実施した他、生徒指導部と合同で朝の通学指導を行い、生徒に交通安全の意識付けをはかった。 ・夏には卒業生を講師としたナチュラルスワッグ講習会を、秋には浅草・豊洲方面の社会見学を会員向けに企画し、会員相互のコミュニケーションを育む機会となった。 ・プレ100周年の今年度は、記念ネックタオルの製作・販売、秦高まんじゅう特別包装紙製作、広報委員の100周年記念誌編纂への参加等、PTAとして様々な側面から記念事業に携わった。
5	市ヶ尾高等学校PTA	1) 横浜北地区大会および神奈川県大会におけるPTA活動事例の発表 2) 活発な広報活動による県高P連広報紙コンクールにおける3年連続の入選 3) 外部連携（2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)）による環境委員会活動の情報発信
6	鶴見総合高等学校PTA	・「子供達の笑顔のために」を合言葉とした活動 ・外国につながるのがある子供達が多いからこそ、日本の文化を大切にする活動 ・「活動出来る人が活動出来る時に全力で活動」を心がけるPTA活動

No.	団体名	活動・業績等の概略
7	希望ヶ丘高等学校PTA	昨年度の組織改編を踏まえ、今年度は「生徒のための持続可能なPTA」の確立に向け、運営体制の土台づくりと情報セキュリティの整備を段階的に進めた。 組織改編と自発的運営・連携 ● 委員選出を立候補制へ移行し、自発的な参加による安定した運営体制を確立 ● 改編後の不安を考慮し、本部・各委員会・学校が連携して相談しやすい環境を整備 改編後の主体的・柔軟な活動 ● 学年委員会：懇談会・講演会 ● 環境委員会：清掃ボランティア ● 広報委員会：デジタル配信 生徒活動環境の支援 ● 合唱祭トロフィー寄贈 ● 各種大会での飲料提供 ● 部室まわりの清掃活動 情報セキュリティの整備 ● 規定見直し・運用マニュアル整備 ● PTA専用アカウント導入 ● 専門委員会に依存せず管理できる体制へ移行し、活動のスリム化を実現 保護者や地域への活動報告 ● 「PTAだより」を試行的に発行し、各委員会の取り組みや活動内容を保護者へ周知 ● 組織改編の経緯や課題を大会で発表し、他校PTAとの情報共有の機会を創出 持続可能な運営工夫 ● 活動を「トライアル」として実施 ● 柔軟で無理のない運営を可能にするため、活動後のアンケート結果を共有
8	逗子葉山高等学校PTA	・地域の清掃活動に参加 ・教員・生徒会が主となり行っていた挨拶運動に今年度より参加（交通安全委員） ・体育祭での熱中症予防のために、凍った飲み物を1,000本配付 ・広報委員による、PTA活動の紹介冊子を作成、配付 ・学年成人委員による、バスツアー開催（山梨方面） ・文化祭での出店

No.	団体名	活動・業績等の概略
9	光陵高等学校PTA	・ 委員会は、企画委員会と広報委員会があり、企画委員は文化祭での軽食と飲み物の販売、保護者交流企画、制服リサイクルを実施している。広報委員は年に2回、写真をふんだんに使った広報誌づくりに取り組んでいる。次年度に向けて委員アンケートを実施し、より活動しやすい委員会内容を検討中。 ・ 委員会とは別の単発のお手伝いのサポーターは、年々登録者が増え、令和7年度は150人以上の登録があった。花植えやペンキ塗り、行事の手伝いなど、随時活動している。多くの方が少しずつ関われるように、サポーターズにお願いする項目を増やしていく予定。 ・ 理事校として企画した、地区大会での助産師さんの講演会が評判で、他校での講演依頼が殺到した。
10	菅高等学校PTA	菅高等学校PTAは、「できる人ができるときに、やれることを実施する」という基本方針のもと、以下の4つの組織運営を行っている。 ・ 本部：運営全体の統率、外部組織との調整、高校・生徒会との連携 ・ 広報委員会：年3回の広報誌の作成、行事の撮影参加を通じた生徒の学校生活の活躍の記録と共有 ・ ふれあい委員会：文化祭にて生徒に人気の「カレーライス販売」、事務棟前の花壇の季節毎のアレンジ、自転車点検による安全確認、卒業式・入学式での花飾りと記念品の贈呈 ・ 成人委員会：多摩地区の遊歩道整備事業への参画、フラワーアレンジメント研修を通じた会員交流の実施
11	厚木北高等学校PTA	「体育祭における学年委員会を中心とした給水活動」 例年5月に開催される本校体育祭において、生徒の安心・安全な活動への参加を支援するため、PTA学年委員会が給水活動を行った。最も気温の高くなる正午にクラスごとに飲み物を配付しつつ、生徒と交流した。
12	新栄高等学校PTA	① 【変化を恐れないPTA活動】 ② 【『生徒のために』を最優先】 ③ 【学校との連携を意識】
13	横浜栄高等学校PTA	○学校内の教育環境改善に関する活動 毎年、学校とPTAが協力して校内のペンキ塗りを行い、生徒の学習環境を整備している。 今年度は体育館の床改修工事が夏季休業中に行われることになったので、工事前の6月下旬に約60名の保護者と教職員が参加し、体育館内の壁をきれいに塗る作業を行った。蒸し暑い日ではあったが、4つのグループに分かれて塗る場所を分担し、協力して作業することができた。 入学式当日に保護者へ参加を呼び掛けたり、校内の駐車場を確保して自家用車での来校を許可したところ夫婦での参加が増え、充実したPTA活動となった。

No.	団体名	活動・業績等の概略
14	鶴見高等学校PTA	鶴見高等学校ではキャリア教育の一環として、OBOG講演会を同窓生から講師を呼び授業を行っていたが、同窓生のみではなく広く保護者からも講師を募集し、授業を行なっている。 PTAが保護者の講師募集を行い、保護者講師候補を学校へ推薦している。 今後も同窓会との連携を取り、生徒たちのより良い高校生活を支援していきたいと思う。
15	伊勢原高等学校PTA	○文化祭で販売・サポートをおこなった。 ・飲み物やかき氷の販売をおこなった。 ・来校者の入場受付を担当した。 ○令和7年度平塚秦野地区交通安全大会の運営をおこなった。 ・会場準備、開会宣言、大会宣言などを生徒と共にこなした。
16	元石川高等学校PTA	①体育祭では広報委員による写真撮影を行い、広報誌に反映した。 ②文化祭では、本部によるお好み焼き調理/販売、学年委員によるおにぎり販売、環境委員による無料ドリンク付き休憩所提供とあじさい苗/あじさいリース配布、成人委員による菓子パン販売、広報委員による写真展示を行い、学校内外との交流を行った。 ③球技大会ではHOT/COLDのドリンクサービスを行い、生徒に好評であった。 ④学年委員では、卒業生とPTAとの交流を行う「もとCafé」(後述)を実施した。 ⑤成人委員では観劇を企画し、メンバ間の交流を深めると共に、卒業式用コサージュを製作し、毎年喜ばれている。
17	白山高等学校PTA	・PTA 会員の要望を活動に反映させる取り組みを行った。 ・体育祭での給水活動（生徒・先生に冷たいドリンクの提供）：ボランティア ・文化祭へ本部及び各委員会が出店し生徒、保護者、先生方と交流。 ⇒本部：射的、バザー、駄菓子掴み取りなど、環境交通：泥酔体験（泥酔ゴーグル） - 学年：ハクちゃんどら焼、飲物、成人：陶芸教室作品展示、お菓子販売、 - 広報：楓祭、後夜祭の取材ほか ・広報誌発行（年2回） ・今年度からPTA 便りを発行。（PTA 活動のPR の一環） ・50 周年記念行事

No.	団体名	活動・業績等の概略
18	神奈川総合高等学校 パートナーズ	神奈川総合高等学校では、創立30周年を迎え、「時を超えて繋がる30年分の言葉（ロゴス）」のテーマのもとに記念事業を行った。 創立30周年記念事業の実施にあたっては、パートナーズ会費を活用し、実行委員として約2年間、パートナーズも携わった。創立30周年記念事業は、式典の実施・記念誌の作成・記念品の選定、購入等を教員・生徒・同窓会と協力しながら実施した。式典は、大さん橋ホールに一から作り上げた舞台上、30年を振り返る演劇や在校生のみでなく同窓生やパートナーズも参加する校歌の合奏・合唱など30周年にふさわしい心に残るものとなった。
19	田奈高等学校PTA (現 青葉総合高等学校 PTA)	・学校行事への積極的な参画により生徒の主体的な活動を導き、支えた。 ・PTA会員数減少傾向を打開するため、SNSツールやマチコミメールなどを効果的に活用し、生徒を支えるPTA活動の趣旨を効果的に発信し、会員のPTA活動の増加に繋がった。 ・受動的・強制的参加の風土を変革し、会員間の交流や情報共有による会員個人の有益な活動であることを発信し、能動的な参加を促した。 ・令和8年度から再編統合により田奈高校から青葉総合高校に改変されることを踏まえ、新たなPTA会則や特徴的な取組について議論を重ねている。